自然農で日本は甦る！

由井寅子（日本豊受自然農代表取締役）

無農薬・無化学肥料・自家採種にこだわる農業生産法人日本豊受自然農の代表・由井寅子さん。農業から食品加工、流通、販売も手がけ、生活全体を自然に戻すということに取り組んでいます。「古来より、日本の農業は信仰心と強く結びついており、農業を通じて神様を感じていました。今こそ、日本古来の自然農と信仰心取り戻していけば、日本は復興できます」と由井さんは力強く語ってくれました。

日本復興の願いを込めて

そもそもの始まりは十年以上前、コンビニ弁当ばかりを食べている社員の体を心配して、自然農で野菜を作り、社員食堂を作ったことでした。

そして、五年前の東日本大震災の時には、私たちのつくった野菜や日用品を持って被災地へ支援に行きました。わずか十分で野菜と水が無くなってしまうこととなり、あらためて「食」と「水」というものの重要さを痛感、日本復興の願いを込め、事業として本格的に農業を始めようと決意しました。

今の農業では、箱にうまく収まるよう野菜は均一なサイズに育てようとします。しかし、大事なのはうまく箱に入るかではなく、どのような野菜が人々の口に、体に入るか、ということです。安心、安全で、しっかり栄養がある野菜でなければいけません。食べたものが体を作るからです。

今の日本人の健康が損なわれている大元は、畑の土が穢れたからです。その結果、私たちの腸が穢れ、病気になっています。土が穢れてしまったのは、戦後、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の政策によって、日本の自然農が潰され、農薬や化学肥料を大量に使う「慣行農業」に切り替えられてしまったからです。

同時に、もともと農業と信仰心は一体のものであったのに、畑が神域であることを忘れ、信仰心を忘れてしまったからです。

慣行農業を長年続けた結果、どれだけの人が不健康になり、病気になってしまっているのか？　今、考え直すべき時にきているのです。

「自然に生かされている理を知り、土と自然に畏敬と感謝の念をもって、人々の幸せのために野菜を育てる」という、一番大切な日本人の心を取り戻すことで、日本の農業を復興したい。ひいては日本を復興したい。これが私たちの願いです。

ですから、私たちは無農薬・無化学肥料・自家採種にこだわり、信仰心と結びついた本当の「自然農」に取り組んでいます。

自然農は、慣行農業より五、六倍手間暇がかかり、植物の生長は遅く、収穫された野菜の見てくれは悪くなります。しかし、一つ一つの野菜が個性的で力強い命がみなぎっています。だから長持ちしますし、野菜本来の味がします。

農業を通じて神様を感じる

古来より、日本の農業は信仰心と強く結びついており、農業を通じて神様を感じていました。お天道様、風の神様、雨や水の神様、土の神様を感じていたのです。田植えをする時には田植祭、田に水を入れる時には水口祭、秋にはもちろん収穫祭です。

私たちも農作業をしているとよく神様を感じます。

例えば、夏の暑い最中、みんなで畑に這いつくばり草取りをしていました。汗はぽたぽたと流れ落ち、とても苦しかった。その時、ふっと風が吹き抜けました。私はそれを甘露と感じ、神様だと思いました。みんなに「そよ風が吹いたね。ありがたかったね」と言うと、「ハイ」という返事が返ってきました。

そんな時に、冷たい井戸水を飲めば、その水も神様ですし、冬の雪の中、収穫でかじかんだ手を暖めてくれる火もまた神様です。雨もありがたいし、雷もありがたい。

植物の根元を食べてしまい、丸ごと枯らしてしまう「夜盗虫（よとうむし）」は、霜が降りると死にます。一方、霜が降りると、麦の根が浮き上がりますが、それで切れてしまうようでは、良い生育状態と言えません。結局、大地にしっかり根を張っていない野菜、虫に食われてしまう野菜は、淘汰されることになるのです。

自然が行うあらゆることには意味があります。霜が降りないように霜よけをすればいいとか、農薬をまいて虫を殺せばいいとか、そういう単純なことではないのです。

私たちの農場は海抜三百五十メートルの場所にあり、強い風が吹き抜けます。防風のために木を植えようという話もありましたが止めました。せっかく風の神様がお通りになる道なのですから、それを塞いではいけません。おかげで、その農場で育つ野菜は強風にさらされても、そうそう折れたりしません。風に負けないよう繊維を増やし、生命力に溢れているので栄養もあるのです。スーパーで売られている野菜とは違い、野菜の強い香りがして、もしかしたら苦くて硬く感じるかもしれませんが、それは安心安全で栄養価の高い野菜だからです。

学ぶべきことは自然の中にある

やはり、人間の基礎は食べ物だと思います。食べ物がおかしければ、心も体も荒んでしまうのではないでしょうか。

畳八畳くらいの畑があれば、だいたい四人分の野菜が作れるはずです。ですから、それぞれの家庭で八畳くらいの畑を持ち、お母さんは午前中農作業をして、午後は掃除、洗濯、料理、そして、愛と感謝の心を養うためにインナーチャイルド癒しの勉強をする。そういうことしていけば、もっともっと日本という国は健康になると思うのです。

信仰心というものは、自然の中にある大いなる意志を感じ、謙虚に、素直に、正直に生きる源だと思っています。そして、それは自然な心、神様の心だと思うのです。

この神様の心から外れ、「勉強できなければダメ」等のこの世的な善悪で子どもを裁くから、子どもの心は傷つき、存在価値を失い、大人になってもこの心の穴を埋めるために、この世的な価値を求めて優秀であろうとしたり、人の評価を気にして必死に努力して生きるようになってしまうのです。この傷ついた子どもをインナーチャイルドと言います。信仰心は小さい頃に自然と触れたことがない人ほど持ちにくく、インナーチャイルドも癒しにくくなります。

由井寅子さん　主著に『ホメオパシー的信仰』（ホメオパシー出版）、『毒と私』（幻冬舎）など。TorakoYui オフィシャルサイト http://www.torakoyui.com/

函南農場全景　富士山と駿河湾を一望できる素晴らしい環境。

ですから、人格形成中である子供たちにこそ、自然農をやらせるべきでしょう。実際、ヨーロッパでは鬱病の人たちに対する農業による治療もあります。種を蒔き、野菜を育て、収穫し、食べるという経験をすることで、思いやりや命を尊ぶ心が育まれ、おのずと自分も大いなる自然に愛され生かされている道理を知り、安心感、感謝の心、謙虚さを持つことができると思うのです。

まずは、農業を底上げしなくてはいけません。みんなでくたくたになるまで農作業をした後、西の空に太陽が沈んでいき、夕焼けに染まった富士山を見ると、無条件でひれ伏したくなるのです。こういった感覚を持つことが大切なのだと思います。

そうやって日本古来の「自然農」に戻していけば、日本は復興できるのではないでしょうか。

第5回 日本の農業と食シンポジウム in 京都
医食農健 ―人が健康に生きるために―

日時／平成28年4月10日（日）
会場／京都リサーチパーク西地区4号館 地下1階
主催／農業生産法人 日本豊受自然農株式会社
　　日本ホメオパシー医学協会（JPHMA）
講演／農民 ホメオパス・由井寅子
　　医学博士・安保徹、女優・杉田かおるなど
お問合せ／農業生産法人 日本豊受自然農株式会社
　　電話 03―5797―3371
　　http://toyouke.com/kyoto2016